

たくさんの感動にふれた五戸総合病院での地域研修

令和4年9月研修医

大阪公立大学医学部附属病院

初期臨床研修医2年 柘谷彩耶

「五戸ってどんなところだろう…八戸は聞いたことがあるけれど、五もあるのか！」
これが私と五戸の最初の出会いでした。人生で初めての青森ということもあり、地域研修が近づくに連れ、期待と不安が高まっていきました。

(大きい…!) 初日にまず私が驚いたことは、想像していた何倍も大きな病院で病棟にも外来にもたくさんの患者さんがいたことです。五戸総合病院は五戸町唯一の総合病院で、地域の方々を支えていることを実感しました。

先生と一緒に病棟へ行くと、患者さんと医療従事者が楽しそうに会話している景色が目に飛び込みました。「ここの松茸がおいしいんだよ」と話す患者さんの顔はまるで病院とは思えないほど、笑顔であふれていました。

今後の治療方針を決定する時には、「医師が医療的にこうしたほうが良い」と決めるのではなく「患者さんがどういう風に過ごしたいか」を尊重する光景がありました。都会の病院では、どうしても効率的に患者さんを入退院させなければならないのが現状ですが、五戸では「患者さんにいつ退院したいか」と希望を聞き、退院への不安が無くなれば退院しようという方針でした。このように患者さんに寄り添える医療は、小さい頃に自分自身が思い描いた医療の在り方であり、医師を志す基盤となった気持ちを再び実感することができました。患者さん自身だけではなく、その背景にあるご家族や生活環境、ADLなどを考慮し、どのように今後過ごしていくことが1番幸せであるかを考えることで、「なにがなんでも治療を継続する」ことだけが医療のすべてではなく、その人自身に向き合うことがいかに大切であるかを痛感させられました。

五戸での研修は、外科ローテを選択し、病棟管理、外来、手術、訪問診療、死体検案、救急外来、内視鏡検査など、1か月とは思えないほど数多くのことを経験させていただきました。私が研修している大学病院では指導医がたくさんいるのが当たり前の環境ですが、五戸では医師の数も少ないため「自分が患者さんを診るんだ」という意識がとても強くなりました。特に、朝・夕方にある回診では先頭に立って患者さんや看護師さんと積極的にコミュニケーションをとることで、患者さん一人一人に寄り添えたことはとても大きな経験になり、私たち自身も学ぶことがたくさんありました。眠れないという訴え一つでも、治療の副作用なのか、精神的な不安が多いのか、患者さん1人1人全く違った理由があり、それぞれに合わせた治療を考えました。先生方に患者さんとの向き合い方を見ていると、検査に頼るのではなく、患者さんとのコミュニケーションの中でこそ気付くことができる、患者さんのちょっとした変化の大切さを実感しました。

地域研修では医師だけではなく、看護師さんや技師さんなど様々な医療従事者の方と関わ

る機会が多かったことも印象的でした。医師だけが患者さんの治療方針に関わるのではなく、チームとして一人の患者さんを様々な立場から支えることで、私たちも気づかなかった視点から新たな発見をすることができました。例えば、人工呼吸器離脱を目標とされている方が離脱時間に家族と関われる時間を増やしてはどうか（フェイスタイムなど）や、話せるように気管切開チューブを工夫してみてもどうかということ。人工呼吸器をつけていてうまく話せない人であっても、表情や手の動きからその人が思っていることを汲み取り寄り添う姿は、私も医療者として学ぶべきところがたくさんありました。職種にとらわれず、医療者としてチームで患者をサポートしていく体制は、どんな場所の医療でも取り入れていくべきであると感じました。

五戸は、りんごはもちろん、馬肉・シャモロック・倉石牛…と他にも美味しいものがたくさんあり、あたたかい親切な心を持った人が多い、そんな素敵な町です。数ある地域研修病院の中から、この五戸総合病院を選んで本当に良かったと思います。

最後になりましたが、いつも楽しくて気さくに接していただき麻酔の基礎からたくさん教えていただいた安藤院長、色々な手技をたくさん経験させていただき患者さんとの真摯な向き合い方を教えてくださった後村先生、五戸の魅力をたくさん教えてくださった親切な管理班の越後さん、そのほか五戸総合病院の皆様、本当にありがとうございました。いつも「おはようございます」「先生元気？」と気さくに声をかけてくださる皆様のおかげでとても居心地が良かったです。

五戸総合病院での1か月は本当にあっという間で、とっても濃く、大切な思い出になりました。今でも患者さん一人一人の顔が鮮明に浮かんで「どうしているかな」と思い出します。たった1か月間でしたが、研修医生活で、そして医師人生で大きな影響を与えてくれた1か月になったと思います。

空港へ向かう帰りの車では、遠く離れ小さく見えなくなる五戸総合病院を見て、寂しさにほろりと涙があふれてしまいました。このような素敵な病院がずっとずっと地域を支えていてほしいです。

私も五戸総合病院で得たことを生かせるように、発信して伝えていきたいと思います。

必ずまた五戸へ遊びに行きます！

本当にありがとうございました。